

ハイパーなんだかなあ

§ 1 ~ § 25まで

§ 1 犬の散歩

ここ何年か必ず朝な夕なに犬の散歩が行われる。

朝、見かけるのは中学生ぐらいの女の子で犬は多分雑種。体長1mぐらいの中型犬だ。

彼女は犬の散歩の当番らしく当社の駐車場までつれてくるや、つなでいた鎖をはずす。

犬は喜び駐車場駆けずり回り、一服ついたところでウンコをする。

次の日もウンコをする。

また、次の日もウンコをする。

車がないときはどこでもウンコをする。

車がある時は人が通る所にウンコをする。

犬は自由な時間がとてもうれしい。

自分が通るところはすべて縄張である。

ところで別な話だが、その犬の健康状態は割といいようだ。

元気なウンコ、いわゆるオゲンコの状態である。

しかし、なんでよその犬の健康管理までしなくちゃならんのだ。

一方、彼女はウンコを見ないし、処理もしない。

ここで思い出すのはフランスでの話だ。

それは、テレビで見たのだけれど散歩中の犬のウンコを掃除機のような物を持った専門の業者がバイクにのって一個一個のウンコ吸いにとって回っていたことだ。

フランスにはそれほどウンコが多いということだろう。

ここはどこだ。そう、当社の社員駐車場。

フランスほどではないにしろ、ウンコは多い。

気をつけないとすぐ踏みそうになる。早朝から寝惚けてなんていられやしないの

だ。

恐怖なのは夜である。あたりは暗い。ウンコは見えない。まるで地雷でも埋め込んである戦場をそりそりと歩くようだ。

しかし、地雷とウンコが劇的に違うのは踏んでもそれは爆発しないことだ。

このことはウンコに感謝しなくてなるまい。

したがって通常は次のような状況になる。ウンコを踏んで気づかず、車内に入りペダルを踏む。

ウンコがペダルにくっつく。

なんか踏み応えがいつもと違うなと思いつつながらそのまま、ウンコは運ばれる。、、

、。

「加印」、犬のウンコの始末ぐらい飼い主がちゃんとめんどろ見ろ！

ウンコをなすりつけられたペダルの気持ちがお前にはわからんのか。

§ 2 白い陶磁器

真っ白な陶磁器を眺めては飽きもせず、、

、

井上陽水の「白い一日」の中の一節だ。陶器で思い出すのは、いきなり便器である。

中央道を西に向かって走って行き、諏訪を越えたあたりからINAとかTOTOの日本人に割とよく知られたメーカの看板が目に入る。

東京の銀座にTOTOのショールームがある。

そう、ヤマハのはす向いあたりである。

建物は五階建てぐらいであり、店内はTOTOの製品が組付けられている。便器はTOTOの主力製品であり、展示数も最も多い。

色も白だけでなくパステル調のものもあり、デザイン的におしゃれである。

便器の機能は世界中の人によく知られている。それは、家（便所）と外界をつな

ぐインターフェースである。通る信号はウンコである。インターフェースの状態に不具合が発生すれば人々はたちどころに困る。便器は家の中で最も重要なパーツといえよう。

さて、便器は工業製品であるから、これを設計、製造、評価する人々が必ずいる。設計の中には機能を付加したり、形をデザインしたりする仕事がある。

機能は単純だが、デザインは無限に近い可能性がある。金の鯨（しゃちほこ）の形をしたものとか、カバの口の形をしたものとか、東京タワーのようなものとか、クワドラのようなものとか色々作ったらおもしろいかも知らん。

ここで人間工学なんぞ持ち込むとおのずとデザインは限定されるから、便器のデザインだけは自由にやってもらいたいものだ。

さて、形が出来上がると今度は使い心地をチェックする。これはいわゆる製品評価である。ここで困った自体が予想される。

たとえ評価用便器であっても、実際に本物のウンコを使って良いかということである。たとえばお偉いさん達を囲んで第一会議室で「本物を使おう」とかなんとか決めたとする。決めるのはいい。だが、実際にウンコをするのは品質保証部の誰かである。

そこで、その担当者に評価中の便器に向かってウンコをしてもらおう。

水を流してみる。

うまく流れた！。

今度は水量を絞ってセッティングして、、、もう一度、、、ウンコができるか？普通。

ほーら、困るでしょ。

で、実際の話、ここで日本古来の調味料が登場する。もうわかったね。

それは「味噌」です。

糞味噌って言葉があるよね。味噌も糞もいっしょくたにする考え方で、似たもの同士を区別なく扱う時に使う言葉。

そう、味噌とクソは似ているのです。なにが似ているかと言うと、粘り気、これを専門用語で粘性というんだけど、この粘性が他のものではない特性が出ない。最初は粘土とか石膏とかご飯とか使ったらしいんだけど、結局味噌が一番適しているということになったらしい。これはすごくよく理解できる。そして味噌が他に適しているという点は、種類が豊富だということ。なにしろ日本国中にあるから硬いものから柔らかいものまで、なんでも揃えることができる。

こういう点で品質保証部の誰かは、味噌にかなわないのである。

しかし、実際、ウンコが途中で流れ切らない時がある。これは便器メーカーが予想しなかったデバイスを流したに違いない。日本中の味噌を使って評価した便器にも適応しないウンコがあるということは、、、。む、閃いたぞ。味噌に叶う方法が。それは味噌には程遠いウンコを提供できる肉体をつくることだ。

そうすれば味噌メーカーはそれに似ている味噌をつくるだろう。

ウンコ対味噌の因縁試合はまだまだつづきそうだ。

だから糞味噌という言葉も永久不滅なのではないだろうか。

§3 高速道路

毎朝、某自動車専用道路を使って通勤している。

その日は事故渋滞が激しく、びくとも動かない。

天気はずばぬけてよく、空は深い青色をしている。

ラジオをつけてみるが、解決の進展はない。

おもむろに一服する。
時間だけが川の流のように過ぎて行く。
所定の場所を限界の時刻で通過できない。
遅刻だ。
しかし、道路の上というのは止まっていたのではなんの機能もないことがわかる。
まして自動車専用道路は横道にそれることもできない。
時間だけが川の流のように過ぎて行く。
遅刻はもういい。しかたがない。連絡しよう。
だが、電話がない。こんな場所に公衆電話があったって普段誰が使う？
だから連絡できない。しかたがない。
時間だけが川の流のように過ぎて行く。
こんなとき人間も自然の中に生きる動物だと思ふ時がある。
ウンコがしたい。妙にウンコがしたいのだ。
しかし、車の中でするわけにはいかない。
今、座っているのは便座ではない。
豪華、ランバーサポート付バケットシートなのだ。
不思議なものである。こう思う時というのは他の人もそのようだ。
まるで、誰かがあくびしたせいで、自分もあくびをするように。
しかし、この日の渋滞は頑固である。
1mmも動かない。
そう、動かないのだ。
それで、こう考えた人もいる。
山の中を切り開いた道路、これを切り通しという。
その山側の斜面を法面といって「のりめん」と読む。
その草の生い茂った法面の中に何かがいる。
ここからでは数十mの距離になる。しかし、目をこらしてみればそこには人間がしゃがんでウンコをしている姿が見える。
サラリーマン風の初老の紳士と見た。

彼はこの渋滞の中、我慢できなかった。
彼は平坦な道路の端でのウンコはできなかった。
彼は草に身を隠したかった。
それはほとんど成功したが、この角度からの展望を彼は予期していなかった。
どうせ、不特定な人々が利用する道路である。
彼が何者であるかわかる人はまず居まい。
それが彼をそうさせたのだらう。
彼は太陽の光が溢れる中、法面という大舞台でウンコしてのけた。
彼に拍手を贈ろう。
例えころがり落ちてきたウンコを走り出した自分が踏んでも。

§4 真空の話

空気は分子の集まりからできている。
空気だけじゃなくてなんでも分子の集まりからできている。分子は原子が集まってできている。空気の分子は動いている。その動き方には色々ある。それをブラウン運動とかとも言う。分子の集まりが少ないと分子同士はあまりぶつからない。反対に集まりが多いとよくぶつかり合う。ぶつかり合うと熱がでるし、あまりぶつからないと熱を奪う。
タイヤに空気を入れるのを思い浮かべる。空気入れを押す。どんどん押す。すると空気入れが熱くなる。タイヤの空気を抜く。シューシュー勢い良く吹き出すと、冷たい空気が出る。タイヤの中身が二酸化炭素だったらそれがだんだん白い物に変わる。これがドライアイスの作り方。タイヤの中身が全部出てしまうと後には何が残る？ タイヤがしぼんで体積を持たなくなるとそこには何も無い。タイヤがゴムの形だけになるとそこには空気がある。しぼんでしまったタイヤを手で引っ張ってもとの形に戻そうとする。なかなか力がいる。圧力の差によってタ

イヤが大気におされているのだ。すなわちタイヤの中は外より気圧が低い。これを真空という。実際に真空とは？とかいう定義がある。閉じられた空間の中が大気より気圧が低い所を真空というらしい。だから電気掃除機の中は真空であって、台風とか低気圧は真空ではない。大気圧よりもちょっとでも気圧が低ければ真空である。電子が何者にもぶつからずに移動できる真空管も真空である。

さて、真空にも度合がある。真空の度合は気圧で表す。mmHg（ミリミリエッチジー）とかTorr（ツール）とかPa（パスカル）で表す。数字が小さいほど真空度は高い。真空度が高いということは息が苦しいということである。ここら辺の大気圧は760mmHg前後である。真空掃除機はその1/2～1/5ぐらい。つまり360～150mmHgぐらい。真空管はこれに10のマイナス6乗したぐらい。（これは100万分の1）こうなると空気の分子はほとんど誰とも出会わない。これは電子にとっても同じ。だから真空管の中を電子は通れる。真空度が低いと空気の分子にぶつかって時には発光する。これが放電。地上での真空装置でつくることができるいわゆる超高真空状態は10のマイナス15乗ぐらい。これくらいになるとその場所ではほとんど何も無い状態と言える。ただ密閉容器の壁があるだけである。宇宙空間はこれくらいの真空度である。だから宇宙空間は何も無いと言ってよい。真空を英語にするとヴァキュウムである。ヴァキュウムというとすぐにヴァキュウムカーを連想する。日本語では真空車なのだがどうもしっくりこない。

最近、近所でヴァキュウムカーを見かけなくなった。下水が整備されてきたから当然かも知れない。ヴァキュウムカー

の真空度はどれくらいだろうと考える。あれだってれっきとした真空ポンプなのだ。これはポンプ方式にもよるけどだいたい10のマイナス1乗から3乗の間。けっこう強力といえましょう。で、なけりゃあの地中から延々ホースを引っ張ってタンクまで吸えないでしょう。

さて、ホースを突っ込んで（どこにだかわるね）オジさんがヴァキュウムのスイッチを入れると勢い良く吸い込む（何を吸い込むかわるね）。時々空気を吸い込んでゲボゲボとかいう音がして、激しくホースが揺れる。あのホースの揺れが子供心になぜかとても怖い。急いで走って脇を通り抜けたりする。その後なぜだか背筋がゾクゾクする。ウンコを吸い込み終りそうになると、空気も吸い込むようになる。するとタンクの真空度はさがる。だからヴァキュウムポンプのスイッチを切るわけにはいかない。ポンプはただひたすらタンクの真空度を上げようと働く。これを排気するという。

排気のなかには匂いがまじる。メタンガスとかアンモニアガスとかスカトルといった物質である。ウンコは微生物（大腸菌とか）によってウンコの成分が分解されて初めて臭う。だから南極ではウンコは凍ってしまってくさくない。

ところで、ヴァキュウムポンプは真空を作り出すために生まれてきたはずだ。実験用ヴァキュウムポンプ、工業用ヴァキュウムポンプ、工事用ヴァキュウムポンプ、ヴァキュウムポンプもいろいろなものがある。そんな中でヴァキュウムカーに取り付けられたポンプはその中でもっとも気の毒な人生だと思う。こういう境遇の物を考えるとき、西の空を茜色に染めた夕陽を眺めながら「自分はヴァキュウムポンプでなくてよかった」とつくづく思うのである。

§5 点滴症候群

日本人に乏しい栄養素がカルシウムだとか鉄だとか言われて久しい。

最近はこちらを補うための食品とか医薬品が目白押しだ。

確かに、牛乳が嫌いとか飲めない体質とか、レバーがいやだと言った話はよく耳にする。だから食べやすく加工したお菓子とか錠剤とかドリンク剤に形を替えて摂取するのはとてもよく理解できる。

つまり、これら栄養素食品を摂取すれば、牛乳とかレバーは食べなくてよいことになる。実に合理的である。

現在の技術レベルではあらゆる食品の栄養素をすべて栄養素食品に加工できる。だから毎日、ご飯を食べなくても肉とか野菜とか魚を食べなくても栄養素食品だけを摂取するだけで体力を維持できる。味は適当に甘くしておけばよい。

昨日の夕刊に今、話した様なことが記事として出ていた。この中で栄養素食品のことを点滴と言うことを知った。確かに点滴と同じなのである。違うのは口から摂取するか腕から摂取するかの違いだろう。さらに驚いたことに記事ではこれらの点滴を毎日のように摂取しないと気がすまない人が多いと言うことである。まるで中毒にでもかかったように。これを点滴症候群と言うらしい。

まさにこれは病気である。

食事と栄養についてこんな話がある。それは全然関係ないけど、ラプラス変換の入門書に書かれていた挨拶文である。「前略、とにかくこの本に従ってラプラス変換してみよう。なぜそうなるかは後から考えればよく、例えば料理はうまいのが肝心であってその中身の栄養素なんかは後から調べれば良いのと同じなのだ。後略」う～ん。なんか騙されたような内容だがわからないでもない。

我々のまわりでもよく知った人が以外と

点滴症候群だったりする。妙に健康管理にうるさく、健康診断の結果を他人の分まで分析してあげたりする。スポーツは絶対かかさないし、残業もそこそこで切り上げる。そして、クスリ屋のオヤジと親しく、新発売の栄養素食品をいち早く評価したりする。

でも食事のおいしさは知らないでしょ。食べ物はおいしいと思って食べるのが一番いいんです。栄養素がどんなものかわからなくてもおいしく食べることができれば力がわくのですよ。

解剖学者の養老先生いわく。人は陽気になったり、陰気になったり、なんでもしたり、なにもしなかつたりする。これは極めて普通のことであってこれらに「・・・すぎる」とくつつくとこれは病気である。と言っている。

点滴症候群だって今や普通のことかも知れないが、これも過ぎればやはり病気のだろう。

今回はウンコが出てなくてすみません。

§6 空を飛ぶ鳥

車通勤している。従って車を所有する。駐車場は賃貸だ。

しかも屋根なしの露天で、土の地面であり、そこは昔、畑だったところだ。いわゆる原っぱ状態。でも賃貸料は¥5000/月と安い。助かる。

駐車場利用時間は休日を除いて夜から朝までのごく短い時間である。

だから大家も恐縮しているようだ。ところで、鳥は空を飛びながらフンができるようだ。

だから鳥が飛ぶ下を歩いているとフンが命中する可能性がある。

残念ながら（幸ながらというべきだろうが）一度もそういう経験がない。

実際、空を飛ぶ鳥のフンを浴びてしまった人を自分の近しい人の中でも知らない。

つまりこれは滅多に起こらないことなのだろう。

ところがである。時々、愛車の屋根とかウィンドウガラスに鳥のウンコ（いわゆるフン）が付着していることがある。塗装面を傷めるから早く拭き取らなくてはならない。乾いていたらそれは除去するのは大変である。

まあいい。鳥のフンぐらい。

きれいになった愛車の屋根を見ながら出かける。

翌る朝、また、付着している。昨日とほぼ同じ位置だ。愛車は白色である。この白色の物体の上を好んで飛ぶ鳥がいるらしい。さらにその上空にくとフンをするものと考えられる。驚くべきことは命中率が非常に良いという点である。

このあと、また、フンの始末をして愛車に乗り込むのである。

さて、何日かしてまたもやフンが付着しているのを発見した。

また、屋根だ。

その鳥は、自分になにか恨みでもあるのだろうか。駐車場の他の車はあまりやられていない。謎である。

しかし、その謎はある日曜日、突然解けた。

・・・・・・・・・・・・・・・・彼は空を飛んでいなかった。

彼は愛車の白い屋根にとまって休んでいた。

彼はそこで（たぶん）遠くを見つめながらフンをしていた。

鳥よ。ゆっくり羽を休めるがいい。

そう、お前にはここしか休む場所がないのだ。

§7 揺れる橋

日本の道路は車が多い。だから有料無料、高速低速を問わず渋滞する。

首都高なんぞは首都低とか首都駐車場と

かいわれるくらい渋滞が激しい。

まして、橋梁構造の道路が多いものだから渋滞時にその橋の部分で停車してしまうと道路がかなり激しく上下し、ひょっとしたら橋が落ちるのではないと思ったりする。

橋は必ず揺れる。

自動車の通行によるものもそうだし、地震もそうだ、風による影響もある。特に橋が長くなればなるほど揺れは大きい。この橋の揺れが大きな問題になりつつある。

橋の近くに住む人への健康被害である。橋の揺れの振動が直接、被害を生むわけではない。実は人には聞こえない超低周波が問題なのだ。どれくらい低い周波数かというと約0.5Hzとか1Hz。症状としてはめまい感とか吐き気、頭痛らしい。その聞こえない音の大きさは数十ホンといわれる。中には百ホン近い大音量のものもあるらしい。実際には聞こえないから音としては静かである。

しかし、エネルギーはすごいものがある。そのエネルギーは橋の近くのビルの壁にひびを発生させる。

Hzはいうまでもなくヘルツと読む。周波数の単位で一昔前のC/S(Cycle/Sec)のことだ。サイクルが小さいほど、または時間が長いほど周波数は低くなる。音の周波数とはすなわち気圧の変化である。音は縦波だから空気の疎密となって伝わってくる。伝わり方は周波数によらない。聞こえるか聞こえないかということである。普通の音ならばマイクロフォンとか使って音量を測定するが、超低周波になると気圧計でも測定できる。

電気で周波数が0になるとこれは直流である。これは電気屋なら誰でも知ってる。音の場合はどうか。これは圧力そのものである。例えば高い山の上から瞬時に下界に降りてきたことを想像する。耳の鼓

膜が大気圧によって押される。すこし聞こえにくくなる。これは直流電圧のスイッチを入れた時のようなものだ。しばらくすると耳はこの変化感じなくなる。これが平地で、まして自分の住んでいるところでおこるのだから避けようがない。どこか橋のないところまで引っ越しするしかないのである。

引っ越しともなるとこれは今までの生活が大きく変わることになる。

交通量が増えると橋の揺れはだんだん大きくなる。もはやビルの壁にひびを発生させるだけでなくビルを倒してしまうのではないかと思う。

橋が先に崩れるか、ビルが倒れるかどちらが先にしてもこれは大問題だ。

.....

いやもっともっと先にすることがある。それは今、自分の下にある橋が崩れ落ちる前に自分がそこを通過することだ。橋の揺れは時として人生をも教えてくれている。(^_^;)

§8 ある男の失敗

これは、アラビアでの話だ。

ある商人が財産として17頭のラクダを持っていたが、死ぬときに3人の息子に、長男にはその財産の1/2を、次男にはその財産の1/3を、三男にはその財産の1/9を与えると遺言した。

ところが、17は2でも3でも9でも割り切れないので息子達は父の遺言通りに財産を分けることができず、ほとんど困っていた。

そこへラクダを1頭連れた老人が通りかかり、「何を困っているのかね？」と尋ねた。

そこで、3人の息子は父の遺言の話をし、それで困っているのだと説明した。すると老人は

「さいわい私はここに1頭のラクダを持

っている。この1頭のラクダを君達にあげるから、17頭にそれを加えて18頭にして分けなさい。」

3人の息子達は、通りがかりの人からただでラクダを1頭もらっては悪いからというので辞退したのだが、老人が強いてそうしなさいというものだから、17頭のラクダに老人のラクダ1頭を加えて18頭にし、それを父の遺言通りに分けることにした。

18頭のラクダの1/2は9頭だから、長男は9頭のラクダをとった。

18頭のラクダの1/3は6頭だから、次男は6頭のラクダをとった。

18頭のラクダの1/9は2頭だから、三男は2頭のラクダをとった。

ところが、 $9 + 6 + 2 = 17$

だから、そこにはまだラクダが1頭残っていた。

そこで、この老人は3人の息子達に次のように言った。

「どうだね？。3人ともお父さんの遺言通りにラクダをもらったかね。

ところで、ここに残っている1頭のラクダはもともと私のものだから、これは私が連れてゆくよ。」

こう言って老人は、自分のラクダを連れて立ち去って行った。

こんなことがあってからしばらくたつたのこと。

財産として11頭のラクダを持っていたあるアラビアの商人が、死ぬ時に、3人の息子に長男にはその財産の1/2、次男にはその財産の1/3、三男にはその財産の1/6を与えると遺言した。

ところが11は2でも3でも6でも割り切れないので、息子達は父の遺言通りにその財産を分けることができず、ほとんど困っていた。

昔、これと似たようなことがあったのを思い出した村のある男は、その真似をし

て自分は頭のよいところを見せようと思って、3人の息子達につぎのように言った。

「自分のラクダを1頭、君達にあげるから、ラクダの数を12頭にしてお父さんの遺言通りに分けなさい。」

3人の息子達はこの男に、ラクダを1頭ただでもらっては悪いと辞退したのだが、この男が無理にそうしてごらんないといふので、この男の言う通り、父の財産の11頭にこの男からもらった1頭を加えて12頭に、それを父の遺言通りに分けることにした。

12頭のラクダの1/2は6頭だから、長男は6頭のラクダをとった。

12頭のラクダの1/3は4頭だから、次男は4頭のラクダをとった。

12頭のラクダの1/6は2頭だから、三男は2頭のラクダをとった。

ところが $6 + 4 + 2 = 12$

これで全部のラクダが3人の息子達にわたってしまった。

前の話ではラクダが1頭残ったのだが、この場合はラクダは1頭も残らなかった。こうしてみんなに頭のよいところを見せようと思ったこの男は、とうとうラクダを1頭、損してしまった。

よく考えもしないで人真似をするものじゃないなあ。

ところなんでこうなったのかあなはわかるよね。

§9 かんばんの話

街中を走ることは色々ときげわしいものがあるが、筆者は余裕がある限り看板を眺めるのが好きだ。

先日も黄色のシートの上に黒い文字で「カ　　ハウス」というかんばんが目飛び込んできた。ちょうど飯でも食おうかと思っていたから引き返して確認すれば、それは「カットハウス」であって「カレーハウス」ではなかった。

東京の溜池交差点を北上して赤坂見附までの間にはなんと屋上に巨大な船が乗っているビルがある。はじめて見ると「こりゃあすげえや」なんてことになる。

秋葉原には巨大なペンキ缶とかブルドーザとかが乗っている。とにかく目立てばGOOD的な発想からとしか思えないものがある。

一方、喫茶店のランチのかんばんは和むものだ。

「ビーフカレー ¥1000、オムライス ¥800 + コーヒー付き」とかがホワイトボードに書かれている。おどろくやら笑ったやらだったのは「オムライス」の「オ」と「ム」の間に誰かが「ウ」の文字を落書きしたことだった。

う～ん、これも時世がなせるワザなのか。橙色とか黄色のかんばんはそのほとんどが「牛丼」関係だと思っていたら、湘南に「回転焼肉」というものが出現していて、そのかんばんが橙色だった。聞いた話によると焼肉の材料がコンベアに乗って席まで回ってくるのだそうだ。どこかどつともない物が回っているようではないのでとりあえず安心した。ぜひ今度評価したいものである。

平塚には競輪場がある。その近くの交差点の標識は1時間考えても理解できないほどむずかしい。最低でも8つぐらいの標識が束になって掲げている。まず、9時から16時までは普通車、大型、原付

き、自動二輪の右折禁止で、土曜日はこれこれ日曜日はこれこれさらに0時から8時まではどうで、その時の車種はこう

で、・・・・・・・・・・・・・・・・。

とにかくこれを一目で理解できる人はほとんどいないのではないかと思われるくらい難しいのである。実際これを設置したお役所の担当でもわからないんじゃない？。

道路標識もそうだけど、道路情報板というのもどうもヒットしたのを見たことがない。一番頭にくるのは「この先、渋滞中、他の道路へ」という無責任きわまりないものだ。

ま、地元民としてはこれでもがまんしてあげよう。しかしだ、他府県から走ってくる非地元民ドライバーには「どーしろってーの」という表示だろう。筆者が他府県を走った時はいずれの土地でも割りとわかりやすい表示がされていて、結構ありがたく思ったものだが、どーも都市周辺になると怒りたくなる表示が多い。また、行き先表示では、例えば「練馬」を目指すとして走って行くと最初は「練馬 km」なんて出ている。km走ると今度は関越 kmとなる。「えっ！練馬はどーした??」。

だけど地方にも「なんじゃあ〜」という標識もある。静岡の海沿いを走っていたときのことだ。この時走っていた道路はいわゆる幹線道路でもないのにいきなり「東京120km」の看板だ。もうちょっと近くの地名でも表示すればいいのに。

話をもとにもどそう。

立てかんばんというものがある。これは大きな物でなく歩道上の樹木に寄りかかって立ててあるいわゆる使い捨てかんばん、通称「すてかん」のことである。

これ、寿命が一週間程度と短いものだが、

すごい宣伝効果があるらしい。ただし、これは違法なんだって。

とにかく目立てばGOOD的な極彩色をほどこしたかんばんに「待った」かけた所もある。富士山の近くの別荘地だったような気がするが、かんばんの仕様、すなわち、大きさとか、色とか、文字を統一して表示しようという行政側のアイデアである。実際これをやってみると景観を損なうことなく宣伝が可能なので、逆にむしろ宣伝効果が上がったとの話もある。つまり見る人が見やすいということで注目を集めるのだそうだ。

もう、わけのわからないかんばんはいらない。極彩色のかんばんもいらない。道路表示板はあてにしないし、巨大なオブジェもいらない。

一見、目立たないかんばんが実は光り輝いて見えるということがわかりさえすれば。

§10 変な言葉？

「ぺっちゃんこ」、「すーすーする」、「すってんころりん」・・・

これらを声を出してゆっくり読んでみよう。・・・意味はすべてわかるよね。

「ぺっちゃんこ」はかなり平らな状態、「すーすーする」はサロンパスとか塗った時のあれで気化熱で体温が奪われて涼しく感じる状態、「すってんころりん」は転んだ時の音の表現である。実際、誰かが転ぶたびに「すってんころりん」という音がしていたら大変である。

最近、「女子高生がブイブイいわしながら歩いている」なんていう表現があるらしい。しかし、いつも女子高生がブイブイ言っているわけじゃない。もし言っていたとしたら通学途中の例えば電車の中なんかはいわゆる豚小屋じゃないか。

「ひーひー言う」とか「ひりひりする」ってーのも感じとしてはわかるけど、冷

静に考えるとわけがわからない表現である。「ゴアゴアする」とか「ヌメヌメする」とかは妙に延髄に問いかける何かがあると思うのは筆者だけ？

ら抜き言葉というのが近年ささやかれている。いわゆる「ら」を抜いて発音するところからこのような言葉が生まれたとされる。例えば、テレビで評論家が言っていたことは、「食べれる」、「起きれる」、「見れる」は本当は「食べられる」、「起きられる」、「見ることが出来る」というのが本当。」だ。何を持ってして本当なのかはよくわからないが、この評論家はら抜き言葉が嫌いらしいのである。

よく言われることに「言葉は時代とともに変化する」というのがある。たしかに今の時代に江戸時代の時のような言葉を話す人はほとんどいない。ら抜き言葉が後の時代にはどうなるのでしょうか。次は「れ」を抜くのでしょうか。もしそうだとすると先ほどの例は「食べる」、「起きる」、「見る」となり、意味が通じない。今の時刻では意味不明だが後の時代には意味明快なものになるのでしょうか。

テレビでは、よくグルメ番組を放送している。ある料理をおいしいとかなんとか言っているだけで実際、味がわかっているのかこちらにはよく伝わってこない。ま、これはどーでもいいのだけれど実は箸の持ち方が気になるのである。

人生の先輩曰く、「最近の若い者は箸の持ち方も・・・」とお嘆きになるがそうではなくテレビ（他人の前）で食べ物を食べるのだから箸の持ち方ぐらい美しくやってもらいたいと思うのである。

箸の持ち方が最も気になるタレントを二人紹介しよう。読者の皆さんも今度ぜひ、箸の手側（右利きなら右の方：物をつかむ反対側）の開き方に注目してください。普通は4～5cmぐらい開いているのだが、

彼らは閉じている。いや、閉じているというより、割っていない割ばしを持っているようなスタイルなのだ。その一人目は山 新伍である。彼の箸の持ち方は豆をつかむこともできない幼稚なものである。もう一人は 家こぶ平である。箸の先端を開くことができない持ち方で、両者ともとてもお世辞にもおいしそうな食べ方とは言えない。もっとも筆者も他人に自慢できた箸使いではないが、そのかわりテレビには出ないので無害だと思っている。

NHKの3チャンネルをよく見る。そこには驚くほどおもしろい番組がたくさんあることがわかった。例えば「陶芸教室」である。まず、先生とアシスタントの女性がいる。テキストに沿って番組を進めようとアシスタントの女性は懸命に先生を誘導するのだが先生は根っから陶芸が好きなので一度轆轤（ろくろ）をいじり始めると無言のまま時間が過ぎて行く場面が多々ある。そしてアシスタントの女性が困るのである。それが毎回そんなような内容なのでそれがかなりおかしい。また、「パソコン教室」では先生が手本を示すのだがなかなかパソコンが言うことを聞いてくれない時の[間]が結構おかしい。さらに「ピアノ教室」かなんかで先生が演奏に乗ってしまっても生徒が引けないような早い運指でピアノを引いてしまうんざぁ傑作中の傑作と言えましょう。「日曜大工講座」もわりといける。その日のテーマは押入れを改造してクローク風にするというものであるが、5cmぐらいの角材を鋸（のこぎり）で切って組み立てて行くとか、釘を打って固定するとかの作業を細かく解説しながら改造してゆく。作業は実に簡単そうなのである。しかし講師である大工さんの額から両肩にかけては大量の汗が見えるのである。テレビでの編集は「見るとやる

とでは大違い」も教えてくれている。さて、お待ちかねの諸君のために「ウンコのお尻の正しい吹き方」を伝授しましょう。これは「赤ちゃん健康相談」とかいう番組だった。先生曰く、「赤ちゃんのお尻は前から後にかけてやさしく拭きましょう」ということだった。これが逆だと前の方が汚れてしまって病気の原因になるからとのことだった。そこでおかしかったのはアシスタントの女性（なぜかNHKの番組ではアシスタントは女性なのだ）の極めて真剣な発言である。筆者はこの言葉がどうしても忘れられない。それは「これは大人にも適用できますから是非これを見ている方も試してみてください。」これは大笑い。

§ 11 トンネルの話

ところで車のスピードを実感したことある？

時速100Kmのスピードは秒速では28mだし、時速50Kmでは14m、時速30Kmでは8m進むのですよ。例えば1000mのトンネルを時速50Kmで通過しようとしたら何秒かかりますか。ハイ、答えは72秒です。72秒と言えばあーた、1分12秒じゃあぁ～りませんか。ここでもしも巨大地震が襲ったとしたらその第一波が終わってしましますね。と、いうことは概ねトンネルの中であなたの命運が決まるということなのです。これは普段は全然考えないことかも知れないが、よ～く考えてみると絶対に有り得ない話ではないですね。

トンネルは地震に強い。なんて神話があったけどあの阪神大震災の結果を見たらそんなことはないね。ひどい傷みようだった。また、北海道の古平というところでは巨大な岩がトンネルを突き破って中を通行中のバスとか車を押しつぶしたのは記憶に新しい。マスコミとか国民は政府の危機管理が云々と言っているけ

れど、それ以前の問題じゃないかしらん。そもそも我々には危機意識というものがない。これはトンネルに限ったことだけではない。踏み切りにしたって橋にしたって道路は交通事故も含めて危険がいっぱい有りすぎる。例えばちょうど轍（わだち）のところにウンコがあったとする。これを踏むまいと懸命にハンドル操作をすればそれだっけかなり危険な場合もあるし、雨の代わりにウンコが降ってきたらと想像すればワイパーだっけ太刀打ちできず、前が見えないまどこかクサイところに衝突するなんてことになる。普段からこんなようなことをシミュレーションおけばこれらの危険を回避できるかもしれないが某社のドライブシミュレータを持ってしてもこんな機能はないのが現状である。

車にはオードドアロックという機能を持ったものがある。これはドアロックをせずに走り始めても時速が20Kmを越えると自動的にすべてのドアがロックされるというもので、一度ドアロックがかかると走行中にそれを解除することはできない。（もっとも走行中に降りる人はいないと思うが）少なくとも日本ではそういう仕様になっている。ということだ。と、いうのは外国、特にヨーロッパではこのような機能はない。万が一の救出時、ドアが外から開けられないからである。従って日本ではこのような場合、ドアを破壊して救出する。しかし、ドアを破壊している分だけ余計に時間がかかり、ヨーロッパにくらべて搭乗者の生存率は低くなる。また、別の側面としてドアの開放という問題がある。事故の時、ドアロックしておけば万が一の時、搭乗者が外に放り出されないという点が利点としてあげられている。しかしだ、ここでもしが付く。ヨーロッパではロックしなくてもドアが開放しにくい、したがってド

アロックは不要という話に行き着くのである。これらはドアのラッチ機構の構造による。日本製は数百Kgという力でラッチ機構が壊れるが、ヨーロッパ車は数トンもの力でもラッチ機構が壊れることはない。その前にドアの板金が破れる。日本車はやはりゼロ戦のように木と紙でできているようなものなのだ。にもかかわらず日本人運転手には危機意識というものがないのではあるまいか。

ある中小企業の話、従業員は200名ぐらいで建物は2階建て。増築を重ねて迷路状態であるが、消防の避難訓練は創業当初から一度も行われていない。2階から外に直接出られる外階段は一箇所もないし、スプリンクラーなんてのものもない。もしも火事にでもなったら窓から飛び降りるしかないのである。この会社は万が一の事態になって初めて危機意識というものを学習するのだろう。

今、社会的に危機管理を叫ぶ声が色々な所で聞くことができる。しかし、その前に個人々々の少なくとも我が身に迫る巨大なウンコに対しての意識が今一番大切なのではないのか？

§ 12 (笑い)の話

(笑)マークはパソ通関係ではその表現手段として日常的にたびたび使われる。また、フェースマークと呼ばれる(^_^)とか(;_;)とか(^.^)vとか(*^_^*)とか!B_(`´)も同じ仲間と言える。

漢字を使わずに記号系の文字で構成されるこれらのマークはビジュアルである。何年か前からフェースマーク辞書なる本を書店で見たことがあるが、その中身は多彩で何行にもわたる大作まであり、芸術性を感じるものもあつたりする。

(^_^;)

これらの使い方としては、まず、自分の内面を吐露したあと、ストレートな感情

表現をしたあとに用いられることが多い。また、「それからどうしたっ!っていうツッコミは無しヨ(笑)」など、強い主張のあとに反論を避けるがごとく使う場合もある。いずれの場合も「今の発言はたいした意味などないよ」と、自ら発言に水を掛ける機能を果たす。

これは何を意味するか。自分の熱意というか意気込みというものを相手に伝えない、あるいは伝えたくないことを意味する実に不思議なコミュニケーション手段と言える。

熱いメッセージ、直言、反論を恐れずにメッセージを相手に送ることは時として突出することである。この突出を抑えるのが(笑)であり、発言の意図や裏にある感情を抑え、反論を回避する。自分も、そして相手も傷つけない。一方、自分が傷付きたく無いのであればそれは他人とのコミュニケーションを止めれば済む。ところが、パソ通の発展はとどまるどころではない。人はコミュニケーションを求め、自分をアピールしている節がある。これは「深く自分の存在を揺さぶられることなく他人と群れている」という実に相反するコミュニケーションなのだ。

(笑)の普及はメッセージの送り手だけでなく、受け手もそれを望んだ側面がある。人が自己の突出だけでなく、関係する相手の突出にも敏感になった。いわゆる「引っ掛かる」といわれる部分である。パソ通は文字が主体であり、その表現と解釈は多岐にわたる。自分の表現力のなさから自分の深意とは逆の表現に捕らえられたり、相手の博識により深読みされることもある。そしてその部分に摩擦が生ずることがある。実に恐ろしい。(笑)パソ通にはネチケツとか呼ばれるいろいろなルールがある。

こんな中、(笑)に込められた取り決めは「ワタシ・アナタ・コウゲキ・シナイ」

ということであり、「アナタ・ワタシ・コウゲキ・シナイ」である。つまり(笑)は白旗なのである。

§ 13 頼むから...(1)

ブレーキランプ

最近、いや、ここ何年か前から車の走行中に意味も無くブレーキを踏む輩がいなさる。

例えば、高速道路で突然何のまえぶれも無くブレーキランプが一瞬光る。あるいは、ゆるやかなコーナーの度にブレーキランプが一瞬点灯する。なんでここでブレーキ?と思うことがしばしばある。どちらも共通なのはそのブレーキが短時間で終了し、車に停車する意志が無いことである。これを偽ブレーキという。

ドライバーは前車のブレーキランプに敏感である。ドライバーは前車のブレーキランプが点灯すればそれは停車するものと(筆者は)思う。ところが前述のとおりであってこれは逆に危ない。つまり、ブレーキランプを無視するよう学習してしまう。

真ブレーキと偽ブレーキの区別は短時間ではわからない。前車としばらくの間ランデブーしてだんだんわかってくる。

一方、ドライバーはなぜ前車のブレーキランプに敏感か。実は車の流れの中で自然にそうになってしまう。あるいはそうならざるを得ない状況で走ることになってしまっている。それは車間距離だ。車の通行量が多い道路では車間距離をあけて走ることは中々できない。後続車に迷惑がかかるからだ。おのずと前車との車間距離が縮まる。だから追突を避けるために前車のブレーキに敏感になるのである。偽ブレーキは年を追うごとに増えている(気がする)。それは色々な原因があると思うが一つはオートマチック車が増えたことだろう。なにしろ普通自動車の新

車販売数の90%がオートマチック仕様だと聞く。また、高齢者ドライバーとか女性ドライバーの増加も関係あるかも知れない。

通常、車速を減速するにはアクセルペダルから足を離すかシフトダウンしてエンジンブレーキをかける。そうすればブレーキを踏むことなしに減速することができる。

頼むから私の前を走る車は偽ブレーキを止めてほしいと思うのである。いつか突っ込むかも知れないよ。

リヤフォグ

赤いリヤフォグもただけない。深い霧、激しい雨、降りしきる雪の中、しかも山間部の急なカーブの多い道ならまだしも道路灯が煌々と点灯し、路面もハッキリ見え、しかも渋滞している道でまぶしい赤いリヤフォグをつけっぱなしのあなた!(BMWとか外車系に多い)それはただ後続車の視野を眩惑しているだけなんですよ。

この赤い(黄色い)リヤフォグは運転席からスイッチでON/OFF出来る構造であるはずだから、目立ちたい気持ちはわかるけど、賢いドライバーになりたいならスイッチを切ろうね。

頼むから筆者の前を走る車は赤いリヤフォグを止めてほしいと思うのである。いつか突っ込むかも知れないよ。

黒煙

前方は空いておりスムーズな走行。T字路から車が合流しようとしている。タイミング的に入れてあげないとまずい状況。スピードを若干落とし、合流させる。しかし、合流してきた車はディーゼル車。もうもうたる黒煙をあげ視野を遮る。しかもクサイ。そして一気に加速して遠ざかってくれればまだ良いが現実はその甘くない。のろい。だから長時間にわたり黒煙と悪臭をあびせられることになる。

トラックとか大型車はガソリンエンジンがないから仕方が無いし、生活物資を運んでもらってる都合上がまんしょう。しかし、普通車とかレジャー車を買う時になにもディーゼル車を選択しなくたっていいじゃないか。

ま、燃料代が安いとか燃費がいいとか二酸化炭素の排出量がガソリンエンジンより少ないとかメリットはあるだろうけど、いかんともしがたいのが黒煙とにおいてある。エンジンメーカーは何をやっているのだろう。

頼むから筆者の前を走る車は黒煙を出さないでほしいと思うのである。いつか突っ込むかも知れないよ。

§ 14 壊れたPowerBook165cのヒンジ



見た目を気にしてはみたもののやはり目立ってしまった黒頭のトラスネジ(ワッシャーまで黒にしたのに)



銀色の丸く見えているのは実は六角ナット。ネジは手前側に1mmくらい出ている。
(上の枠の写真で見えている内側の2本のネジはこちら側のディスプレイベゼルの内部で止まっていて見えない。)

1993年4月1日に我が家に来た

PowerBook165cのディスプレイ開閉部がついに壊れた。

1998年8月6日から数えると1953日経ったことになる。

例えば1日に1回開閉するとして1953回、ま、ざっと見積もって2000回開閉したこ

とになる。

こんな回数で壊れるとは情けない話であるが、それでもまだ現役(CPUは68030/33MHz/HD220MB/RAM14MB/14400内蔵モデム、KT7.5.1)なのでとりあえず開けてみることにした。

ディスプレイ部を分解し、開閉部のヒンジと呼ばれる部分を露出させたところヒンジをディスプレイケースに固定しているネジ受け部分が片側だけ(ヒンジは左右2カ所ある)プラスチックの台座ごと粉々に壊れていた。どおりで最近特にブカブカしていると思った。

どうしようもないのでディスプレイケースの外側(閉めた時に見える側)まで貫通穴をあけてネジで共締めにすることにした。しかも壊れていない左側を含めて4カ所の穴をあけ、ちょっとだけ体裁を気にしてM3黒トラス×16mmのネジを使って修理した。(そう言えば原さんのPC98ノートもネジが見えていたような気がする)修理してみると開閉ロックをはずしたとたん(PowerBook165cは開閉レバーを横に動かす)わずかにディスプレイが開く。

これは新鮮だ。確か新品の時もそのようになったはずだが、最近ブカブカに慣れてしまっていてすっかり忘れていた。思いおこせば当時村さんに背中押されて清水の舞台から飛び降りるほどの金額を払った(当時43万円もした。しかも今は潰れてしまったマックギャ×リーで予約までした)マシンだもの、後5年は使わなくちゃね。

§ 15 梅雨明け前の海岸風景

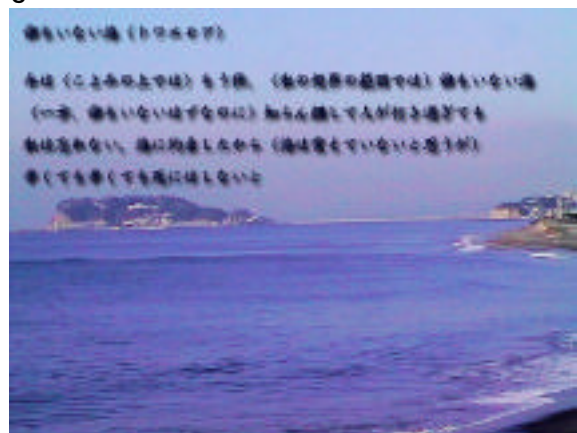
そう言えば今年は冬からおかしかった。何がおかしかったか。それは空模様である。例年の真冬、関東地方は北西の風が吹き、からっとした晴天で青空が広がるものだ。ところがこの冬はまるで春

のような空色でつまり空色が青ではなくクレヨンでいうところの水色なのだ。一枚も二枚もベールをかけたようなはっきりしない色であった。また、富士山が鮮明に見える日が極端に少なかった。ある日、稲村ヶ崎に取材に行った時も富士山は鮮明ではなかった。この日新宿から訪れたというカメラマン風の人が「今日は見えませんねえ」と語りかけてきたので「今年は見えない日が多いですね」と答えたことがある。実際春になってもおかしかった。桜の開花が一週間も早かったし、菜種梅雨も長かった。五月の連休は「五月晴れは何処へいったの?」という曇天連休だったし、梅雨の走りと呼ぶ雨も多かった。6月に入りようやくマスコミとかテレビのお天気コーナーで5月は「日照不足で...」と振り返るようになった。

休日に海岸を取材すれば、せっかくの休日、天気に関係無く遊びを満喫する人々でそこそこ賑わっていた。梅雨明け前、特に7月1日の海開き前の海岸はバラエティーに富んでいる。海ではサーフィン、ボディボード、ウィンドサーフィン、ジェットスキー、カヌー、水泳、海岸では釣、キャッチボール、バレーボール、サッカー、スポーツカイト、サイクリング、スケボー、読書、ひなたぼっこ(甲羅干し)、フリスビー、犬の散歩、ジョギング、マラソン、バンカーショット、砂遊び等を見ることが出来る。なんでも有り状態だ。でもまだミモノがある。海岸近くには大手ハンバーガーショップがあり、遊びに訪れる人達の何人かはこのハンバーガーとかポテトを食べながら海を眺めている。実に優雅な風景に見える。ところが優雅なのは人間だけではない。彼等の上空にはこれまた優雅に舞うトンビとかカラスがいる。なぜ、彼等の上空を舞うのか。それはトン

ビ君、カラス君達は実は彼等のハンバーガーを狙っているのだ。ハンバーガーを襲うトンビ君の姿、行動は野生を感じる。狙ったハンバーガーの上空、やや後、高度約10mでほとんど停滞し、絶好気をつかがう。狙われた人間はまったく気付かない。一瞬を突いて羽音もたてずに急降下したトンビ君は両足でハンバーガーをゲットすると今度は全力で急上昇。驚くのは人間である。当人もそうだが、まわりにいる人達もかなり驚く。せっかくハンバーガーを食べながらいいムードで海を眺めていたのにこれではぶち壊しだ。当人は恨めしそうに上空で優雅にハンバーガーを食べているトンビ君を見上げるだけなのである。実は筆者もやられたことがある。トンビ君が人間のハンバーガーを襲うということは以前より知ってはいたのだが、まさか自分がやられるとは....。しかもその時、トンビ君の足の爪が伸びていたものだから筆者の親指を引っ掻いて飛び去っていった。これはかなり痛い。痛いというかいつまでもヒリヒリした感じだ。筆者は言いたい「トンビ君よ、ハンバーガーが食べたかったらせめて足の爪を切ってからにしてくれ。」

§ 16 誰もいない海考



(トワエモアの誰もいない海の詩が書かれている)

§ 17 電車の中で

ある女 ある帰りの電車の中、となりに若い女性（グレーのスーツに黒いバッグ、こりゃリクルート系かななんて思ったりして）が座った。しばらくするとバッグの中をゴソゴソ。あまり見ては悪いかななんて思いながら視線をずらしていると、中から目的の物を取り出したようだ。それは視野の端っこにはガムのように見えたが、そうではなかった。しばらくするとあたりに酸っぱい香りが漂い始めた。あきらかにそれはガムではなかった。なんだろう！？。なんかぞくぞくしてきた。（危ない奴の傾向が現われてきていると言っても過言ではないかも知れない）そしてその物を視野の認識できる範囲に入れると、なんと...そ、それは...！！『都こんぶ』であった。う～む、今どき電車の中で『都こんぶ』とは....。恐れ入谷の鬼子母神。でもきっと好物だったんだよね。そんなとなりに座った女は次の駅で下車したのだった。

ある紳士 電車が駅に着くと左隣の若者が席を立ち駅に降りた。入れ替わりに缶コーヒーを片手にもう片手には四角いかばんをさげ、喪服を着た年輩の紳士が座ってきた。少し席が窮屈になる体躯であったがしかたがなかった。彼はオーディオ雑誌を読み始めた。（どおやらオーディオマニアにようである。）電車がいくつかの駅を越えところで彼の右手が動いた。かばんの中から携帯電話を取り出した。（まさか電車の中でかけるのではあるまい...。（関東地方の電車、バスの中は一応携帯電話禁止になっているところが多い））次の瞬間、電話を掛け始めた。（まいったなあ...うるさいなあ...）そして発声した。「総務部長だけど...」（ほお、この人はどこかの会社の総務部長なんだな）「もうすぐ

着くから...時間通りに行ける...」（ふむ、どこかの葬儀に待ち合わせをして行くんだな...しかし、なんと迷惑な奴なんだらう...）しばらくして迷惑電話は終わった。しかし彼は電話をしまおうとしなかった。なにやらボタンを押し始めた。（なにをやっているのだろう...）突然彼の電話はピーというけたたましい連続音を発し始めた。（こりゃひであやあ）どおやら電池切れの音らしい。その音は5分も止まらなかったらうか。電池切れに気付いた彼は電話機の裏ブタを外し、予備の電池と交換し始めた。（さすが総務部長??ちゃんと言備を持参しているではないかい）ひとまずピー音は止まった。そして彼は電話をかばんの中にしまった。しかし、ゴソゴソは止まなかった。今度は香典を取り出し、中身をチェックした。（そう、ちゃんとチェックしておかないとね）チェックが終わるときちんとそれ用のふくさの包み方をしてかばんにしまった。（これでやっと落ち着くかな...）なーんて思っていると再びかばんの中に今度は両手を突っ込んでなにやら探し始めた。取り出したものは鼻用定量噴霧器（すなわち鼻炎用のスプレー）である。（そうか、彼はアレルギー体質か鼻炎なのだな）ここでもきちんとチェックする。まず、スプレーガスのミニボンベを取り外し、耳のそばで振って、ガスの残量を確認する。（さすが、用意周到??の総務部長であるな）そしてスプレー本体にセットし、大勢が見ている前で両鼻にスプレーした。（さすが、総務部長、他人のことはぜんぜん気にしない??ね）鼻の調子も良くなったようだ。しかし、もうすぐ駅である。（彼はここで降りるかな...）すると彼はおもむろに席を立った。（そうかここで降りるのか...）筆者はなぜかホッとするのであった。話

はまだ続く。彼は席を立ちドアの方に歩こうとしたとき、自分が足元に置いた飲み終わった缶コーヒーにつまづいて思いきり缶コーヒーを蹴ってしまった。慌てる彼。ここで彼は周囲を意識したのかその缶を拾い上げて駅に降りたのだった。……。めでたしためでたし。しかし、ここでもし缶につまづかなかつたら...彼は自分の飲み終えた缶コーヒーを足元に置いたまま立ち去ったであろうことは容易に想像がつくのである。さすが(どこかの)良識と常識を兼ね備えた総務部長だ。彼が筆者の会社の総務部長でなくてよかった...

§ 18 耳栓の話

最近、耳栓を買った。ウレタン製のオレンジ色のやつだ。なぜ、今、耳栓か。耳を澄ませてみよう。日常の風景の中、どこにいてもなにかしらの音が聴こえる。時には鳥の鳴く音だったり、時には車の通る音だったり、またあるときは潮騒と風の音だったり、時には誰かの話声とか...。音が氾濫しているではないか。そこで音を遮断してみたかった。そして気が付いた。耳栓はなんと効果絶大なのだろう。

実際、外界の音が完全に遮断されることはなく、かなり小さくなるといった程度なのだが、それとは別に自分の音がよく聴こえるようになった。例えばスースーと自分が呼吸する音とか、腰に万歩計をつけて歩けばその振り子の音がカシャカシャ。足を地面につける瞬間の靴のボクンボクン音。頭がかゆくなってポリポリ掻けばポリポリ音といったように外界の音よりも自分自身が発する音のボリュームが上がる。いわゆるゆ内に閉じこもるといったような自分の世界を楽しむ(?)ことができる。耳栓をして街に出れば思わず「静か～」といいたくなるような「こ

お～」とした気密音。大勢の人達がいる場所でもぜんぜん静か。というかバックグラウンドで鳴っている雑音のような音も気にならない。誰かの携帯電話の大きな(と思われる)話声もぜんぜん平気。隣の人の咳払いとか独り言とか溜息なんかも撃退できる。これはすごい。(ちと大袈裟か)

電車に乗ってもガタゴト、ワイワイ、キヤーカーなんてほとんど関係なし。椅子に座ることができれば終着駅まで眠ってしまいそうだ。

一方、車を運転中にも耳栓を試してみたが、これはいけません。外界の音が聞こえないのはどんなに恐いか、始めて知った。エンジンの回転音も聞こえないし、後とか横から接近してくる他の車にもぜんぜん気が付かない。まして緊急自動車のサイレンとかも聞こえないからほとんど「迷惑な車だぜえ」状態になる。まるで地吹雪の中を走っているような、周りの景色に関係無く自分だけ空中に浮いているような、まったく進んでいないような、そんな危険な状態になるので万が一これを読んだ人はやらないようにね。いろんなことを教えてくれた耳栓、これからも愛用しそうだ。

§ 19 通販事情

「アガリスク」、「ディーディーセブン」、「アブフレックス」、「ピッチマン」、「モーターアップ」、「ジーティー八チ八チ」

これらを読んでそれが何かすぐにわかったらあなたは通販通です。これらはテレビ、特にCS系衛星放送でたびたび放映される通販のCMに登場する商品なのである。ではそれらはいったい何物なのか。

「アガリスク」健康食品系きのこ。「ディーディーセブン」洗剤系脅威の染み抜き剤。

「アブフレックス」健康器具系腹筋強化器具。

「ピッチマン」文房具系アイデア定規。

「モーターアップ」自動車用品系エンジン添加剤。

「GT88（ジーティーハチハチ）」自動車用品系きず隠し剤。

このCMで登場するのは「アガリスク」と「ピッチマン」以外は外国のCMである。その方法も実演をまじえてのつまり実演販売的CMでその”大袈裟度”は特筆すべきものがある。例えば「ディーディーセブン」。染み抜き剤ということからまず、様々な生地に様々なものを塗りたくってそれから染み抜きするのだが、それがほとんど元通りの美しい生地になるというものだ。説明する人もそれを聞いている客も「うわ～なんてこったー、信じられないよ、ボブ」とかなんとか言ったりする。また、「こいつぁグレートだぜえ」とか「こいつぁ驚きだぜえ」とか「これからはこれにするわ」てな感じである。また、「モーターアップ」も同様でモーターアップを入れたエンジンと入れないエンジンを冷凍室で凍らせてエンジンを始動しようとする。まず、客にどうなるかを予想させ、インタビューする。「こんなに凍ってしまったらかかるわけないよ、冗談じゃないぜ」「私もこの冬に車を凍らせてせっかくの休日を台なしにしたわ」と悲観的な内容で始まり、次にエンジンを始動して見せる。当然、モーターアップを入れた方は始動するし、入れない方は始動しないといった結末である。そこで再び客にインタビューする。すると他のCMで聞き慣れた答えが返ってくる。「こいつぁグレートだぜえ」、「こいつぁ驚きだぜえ」、「これからはこれにするわ」…。こちらとしてはこれらを見慣れてくるとだんだんこういったCMが楽しくなる。フライパンとか千切りカッ

ターとかなんでも切れる庖丁とか台所用品のCMも見逃せない。大道芸よろしく小気味良い語り口で商品の説明を実演を交えて行う。そのフライパンで焼くステーキは絶対にこびりつかないし、もの見事にスライスされる千切りカッター、かまぼこの板まで切っても切れ味が落ちない庖丁とか、何でも落ちるプロ用洗剤などいずれもいわゆる”スッゲー”ものばかりである。こういったものの他にも便利な物とか販売するので、私も買ってみようかしらと思ったものもあったが、現在のところ購入には至っていない。それは価格である。どの商品も1つでは1500円～5000円なのだが、かならずセットで2本以上とか「今回はこれにXXXを付けまして...7800円、7800円のご提供です！」（パチパチパチ：会場から拍手）なんてことになる。フライパンでは10点セット、千切りカッターでは8点セット、庖丁とかでも5点セット、洗剤とかは「希釈すると一般商品のボトル（約500cc入）200本分となり、たいへんお買い得になっています。」というものである。したがって価格もそれなりに1万円を超えるものも多い。なんでやねん？一つだけほしくても買えないのである。いきなりフライパンとか10個もいらぬし、千切りカッターも2種類ぐらいで良いし、庖丁にいたってはオマケのまな板とかいらぬし、。洗剤とかは消費するからいづれ無くなるにしても200本分ではあまりに量が多すぎる...というものだ。けっしてお試しでは買うことをためらう仕組になっている。これは、価格が最初に決まっていたそれにあわせてオマケをつけて販売しているようにも見える。もっとも売る方も1500円の物の注文がたくさん来ても儲からないのかも知れないが。だんだん増加しているようにも見えるテレビの通販CM。小売の商品がいつ登場す

るのかも楽しみなうちのひとつとして加えておこう。

§ 20 頼むから...(2)

タイヤクレーンとタイヤユンボとフォークリフト まるでガンダムのような巨大建設機械が走る。直径が2mを超えるようななどでかいタイヤ。低いなり声をあげてそして巨体を揺さぶり、地面を揺らしながら走る。平らな所はまだいい。しかしちょっとでも上り坂になると極端にのろくなる。時速10Kmも出ているかしら。時々止まりそうになる。2車線の道路では抜くに抜けない。排気管も上に出ているものもあれば、モロこちらを狙っているものもある。これらは精神衛生上好ましくない。バズーカ砲とかミサイルを打ち込みたくなる気分させられる。また、それは自動車専用道路でもゆうゆうと中央車線を走ったりする。その姿は大名行列のようになり、抜き去ろうとする車が右往左往する。この時の大名を律速因子という。(ぜんぜん関係ないな。)車の流れが100Km/hの時は大変に危ない。それはほとんど止まって見える。せめて青色もしくは黄色回転灯をつけて左側を走ってほしい。頼むから筆者の前を走るタイヤクレーンとタイヤユンボとフォークリフトはもっと速く走ってほしいと思うのである。いつか突っ込むかも知れないよ。(オカマ掘られてもまったく気が付かないかも知れないけどな 悲P)追伸：そう言えばタイヤユンボに追突されていたカローラバンを見たことがあるけど、後部はメチャクチャだったなあ。一方当然、タイヤユンボの方は無傷(すでに傷だらけだからなあ)であった。

電車 電車に乗る時は切符を買う。Aコース。まず、行き先までの値段を運賃表で確認しよう。そしてお金を手に持って自動販売機の前に一列に並ぶ。けっし

て販売機の前で丸くなったりしない。次に確実に硬貨を入れる。お札だったら人物を上に入れて入れよう。そして行き先までの運賃が印されているボタンを押そう。そしたら切符とお釣がほとんど同時に出てくるから両手を使って(例えば左手に切符、右手にお釣)両方をゲットしよう。Bコース。まず、自動販売機の前に立つ。(販売機を確保する)次に手荷物を販売機の前の下にある棚におく。バッグの中からおもむろに財布を出す。財布の中身を見つつどこまでいくのか考える。そして運賃表を見上げる。再び財布の中を見る。お金を取り出す。しかもお札を裏返して入れる。拒否されて出てくる。これを何度か繰り返す。そして人物を上に入れる。お金が入る。運賃表示ボタンを見る。運賃ボタンを押す。切符とお釣が出てくる。右手に切符を持ち、財布に入れる。お釣を右手で回収し、財布に入れる。財布に入れていた切符を右手に取り出す。財布をバッグにしまう。バッグを持つ。そしてやっと筆者の番が来るのである。頼むから筆者の前に並ぶ人はAコースでやってほしいと思うのである。いつか代わりに肩越しにボタンを押しちゃうかも知れないよ。追伸：駅の切符売り場でもATMのようにフォーク並びにしたらどうかしら。

携帯電話 携帯電話(PHSも含む)もずいぶん普及したものだ。(1998.11月現在4500万台と言われている)いたるところで使っている人がいる。地域的にこちらの方は電車、バスの中は一応携帯電話が禁止ということになっている。(デッキなら可という電車もある)これは各地方によってその対応がかなり異なる。で、とにかくこちらの方は禁止なのである。でも実情はそうでもない。使っている人がかなりいる。まあ携帯電話の性格上どこでも使えるのは便利である。しかし、

電車とかバスとかの閉じられた空間におけるプライベート的要素の強い電話の話は妙にこちらの気が電話に行ってしまうて聞くとはなしに聞いてしまっている。(内容なんかはすぐに忘れちゃうけど)つまり気になるし、うるさいのである。30分間電車に乗れば少なくとも1回は適当なメロディーの呼び出し音がする。乗客の多くがその電話に注目する(と見られる)。で、話の内容はたいていくだらない。他人の会話なんだからそんなことはどーでも良いのだが、少なくとも電波を利用して伝えるほどの緊急性も感じられないし、携帯電話が無かったころは別段それで済む内容だと思うことが多い。一方、コンサートホール。今まで「腕時計のアラームを止めてください。」とのアナウンスに「携帯電話の電源を切ってください。」が追加されている。確かに演奏中に電話の呼び出し音が鳴ったら興ざめどころではない。指揮者が怒り出すかも知れないし、トロンボーン奏者から楽器の一部が客席に放出されるかも知れない。ところが、実際に演奏中に鳴ってしまったことがあったらしい。それはサントリーホールでクラシックの演奏中の出来事で数分間にわたって鳴り続けた。使用者はかなり焦ったようでしかも暗闇の中でなかなか止めることができなかつたらしい。冷汗大汗大鬨蹙(ひんしゆく)物である。そこでコンサートホールとかの会場とかあるいは電車、バスの中ではある種の妨害電波により携帯電話の呼び出し音が鳴らないような研究が始まろうとしている。頼むから携帯電話を持っている人。電車、バス、コンサートホールでは携帯電話の呼び出し音は鳴らないようにしてほしいと思うのである。

§ 21 頼むから...(3)

開かない包装

・牛乳は割と好物でしばしば1リットルの紙パック品を買う。ただけないのはそれを開封する時だ。うまく行く時とうまく行かない時がある。糊の付け方だと思うがはずれない時は断固はずれないのだ。開くときはすんなり開くが、開かないときは紙の層の接着面を見極めてカッターの刃を入れる。それでも駄目な時がある。もう、イライラしてしまってこれを作ったメーカーでは本当にこれを飲んでいるのだろうか、などと思ってしまう。これが老人では簡単に開くものも簡単に開けられない。(ちなみに明治のは比較的開けやすいが雪印のは開けにくいものが多い)紙パックメーカーにはもう少し改良の努力をしてもらいたい。

・瓶入りインスタントコーヒーの開け口もきれいに開けられない。シール状の薄い紙が瓶の口に接着してある。これをどおやっけてきれいに開けるというのか。スプーンをいきなりグサッと突っ込むのか?。そもそもこれはカッターの妙技を使っても絶対にきれいに剥がれない構造になっている。(これはネスカフェのコーヒー)もうちょっとなんとかしてもらいたい。

・開かないのは紙パックだけではない。カセットテープとかビデオテープ、CD等のシュリンクパッケージと呼ばれるあの、フィルムが密着した包装もそうである。一応引き出しガイドがついているのだが、これが役に立ったことなど一度も(大袈裟であるが)ない。そもそも爪が引っかからないからだ。ここでもカッターが登場する羽目になる。

・キャンディーは大袋の中に1個づつ別々に包装されているものがある。これもただけない。袋の端がギザギザになっていてそこから破るのだが、これが簡

単に破れるものとそうでない物がある。破き方によるが一度破れが止まってしまうとそこから先へはどうにもならない。包装がただ伸びて行くだけなのである。ここでもカッターが登場する羽目になる。

- ・パソコンソフトのマニュアルの包装もシュリンクである。これに至っては引き出しガイドも無いし親指を密着させて破るのだがこれも相当な力を必要とする。これは端っこの少し縮れた部分にカッターを入れて開封する。
- ・カップ麺もそうだ。入れ物の底に小さな穴が開いているものもあるが、これもすぐに開封できた試しがない。
- ・ジュースとか缶詰のプルトップダウンの金具も硬い。開けようとするとしても爪を引っ掛けて一旦タブを起こさないといけないのだが、タブと缶ブタ表面のクリアランスが狭いものがある。無理に爪を入れて起こそうとすると血が出そうになる。
- ・豆腐のパックも開かない。器の表面にあるビニル（ビニールとも言う）が器のへりに強固に接着されていてこれがとても固い。ビニルを引き起こすための出張りとか一部接着剤が無いものもあるのだがこれとて容易に剥がすことができない。大変苦勞する。子供や老人ではとても開かない。
- ・そういえば茶碗蒸しのビニール蓋も強烈である。しかもすれすれまで内容物が充填されているから必ず開封時にこぼれる。まあ輸送中とかに中味の汁がこぼれないようにとのことから強力に接着してあるようだが、程度モンであることは間違いないだろう。

いずれにしても最近のパッケージは開け方に失敗するとあとは道具を使うか力を使うかで開けるしかないが、子供や老人のように力の無い人間にはもはや開封することすらできなくなる。もう一度書く

けど、お願いだからパッケージメーカーはもう少し開けやすくしてこぼれない封止方法を考えてもらいたいものだ。

§ 22 祭りの太鼓

祭りの太鼓の音？

ドーン、ドーン、ドーンという音が遠くからやって来る。ドーン、ドーン、ドーンという音が遠くからやけに速くやって来る。??ン?祭りの時期でもないしなあ...なんて思っていると一台の車が通り過ぎる。ワゴンというかバンというか（筆者には税制上以外の違いがよくわかっていない）ともかくその手の車で、最近、祭り太鼓を鳴らしながら走り去るものが多い。

これは全然よくわからん。ご本人は何の為に外まで聞こえるような音量でしかもそれを車内で聞かなくてはならないのか。やかましいだけじゃなくてそもそも危ないのではないか。

さらに鳴っている音楽の内容もよくわからん。太鼓だけ収録したCDでもかけているわけではないのだろうが、低音だけしか聞こえん。ジャズ系でもないみたい。ただ言えることはクラシック系の音楽ではないことだ。この手の車で聞く為専用の音楽ジャンルでもあるのだろうか。（誰か知っていたら教えてください）

変なの。

+++++

電話勧誘

「もしもし、IsMySunさんでいらっしゃいますか」

「そうですが」

「私、大商事の真と申しますけど、IsMySunさん、学校のご出身でいらっしゃいますよねえ！」

「そうですが」

「実は私、大商事の真と申しますけど、IsMySunさん、（連呼するのが基

本のような)このたび当社ではMMファンドと申しまして…」以下延々金融関係とか先物取引とかマンション経営とかの商品説明が続く。

なんでもまず、商品説明を先にするのがルールだとか…。思えば社会人になってすぐのころからこういった電話攻撃を受けてきた。当時は最初から最後まで約1時間ほど丁寧に話を聞いたものだった。(商品を購入したことは一度もないが)でもだんだん話が進んで行くと、雰囲気は”買わないとマズイ話的狀況”になっていくし、だんだん相手の口調も恐くなってくるのは今も昔も変わりが無い。

で、この手の電話、何かの名簿から適当に選んで電話してくるわけで、こちらはまったく相手を知らないし、興味がある内容ならまだしも、目の色変えてお金ほしいわけでもないから一言で言えば無用の電話なのである。以前は説明が始まってすぐに「興味が無いのでいりません」というせりふで断わろうとしていたが、相手はすごく凄味をきかせて「内容を話していないのになぜ、興味がないと言えるのですか?エ!」とくる。新社会人のころならこれでビビッたかも知れない。こういう電話は実に無礼であり、土足で他人の家に上がり込むようなものだ。まったくもって気分が悪い。最近はこちらも相手が電話口に出る最初のせりふで内容がわかるようになってきたので『筆者には無用の電話である』ということ伝えすばやく電話を切るようにしている。お互い時間の無駄なもの。電話勧誘なんてなくなればいいのと思う今日この頃である。

§ 23 上を向いて歩こう

ここ何年か街のいたる所にカメラが設置されるようになった。例えば地下道、交差点、高速道路の料金所、駅前、エレベ

ータの中、銀行のCD機、コンビニの店内、展示住宅の玄関先などの場所である。これらは人通りが多いとか交通量が多いとか密室であったりとか、もっともトラブルが発生し易いところである。治安の面からの監視活動を補助するためのカメラである。

一方、インターネットではウェブカメラというものがある。これは色々なビューポイントと呼ばれる場所に、インターネットに接続されたカメラがあり、常時あるいは定時に、その場所の景色をリアルタイムで見ることができるといものである。

これを覗いてみると実にこれが(クックック)たいへん良く見えるのである。どれくらい良く見えるかと言えは、場所によっては人の顔が認識できるほどの見え具合(解像度・倍率)なのである。ちょっと顔までは…というカメラでも知人なら背恰好でその人を特定できると思われる程度でこれまた良く見えると言えるだろう。

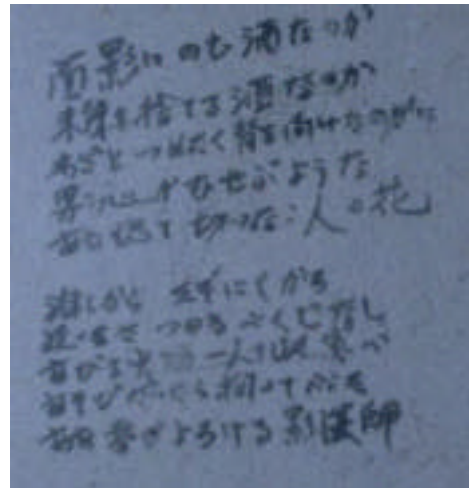
そのウェブカメラの設置場所なのだが、それは観光スポットとか駅前だけではない。蕎麦屋の店内とか喫茶店の店内とかアミューズメント施設の切符売り場とかである。何の為にこんな場所にカメラがあるのか真意はわからないが、一言で言ってしまうえばいわゆる”覗き”なのだ(と勝手に解釈している)。ま、それがまた面白いということだろうけど…(^;)。実際にこれらのカメラの設置点に行ってカメラの在処を探すと大抵は目線より上にある。それは天井とか天井に近い暗い壁沿いとかである。時にはビルの3階あたりあたりする。人は普段、止まっている時も歩いている時も目線はいつも下の方にある。つまり目線より上にある街角カメラにはほとんど気が付かない。というか気が付けないのである。実によく

考えられて設置されている。
 話は元に戻ってウェブカメラではない、
 いわゆる街角カメラで覗いている（監視
 している）人達というのはほとんどが一
 般の人ではない。警察とか駅員とか警備
 会社とかの監視係が仕事として使用して
 いる。しかし、ウェブカメラは誰でもそ
 の環境とその気にさえなればそこを覗く
 ことが可能である。これは（覗く方は）
 実に面白いし、ワクワクする。けれど、
 知らない間にいつも誰かに見られている
 というか監視されているというのは実に
 気分が悪い。監視されているというこ
 とがまったくわからなければそれはそれで
 知らぬが仏であって気分がどうしたこ
 うしたという話ではないし、見られて別段
 悪さをしていなくても監視されていると
 いうだけでどうも頭上が気になる今日こ
 の頃なのである。
 地面ばかり見て歩いていないでもっと上
 を向いて歩こう。そしてカメラを見つ
 けたらVサインでも出して見よう。(^^)v。
 そこにはどこかであなたを見ている知ら
 ない誰かがいるかも知れないのだから。

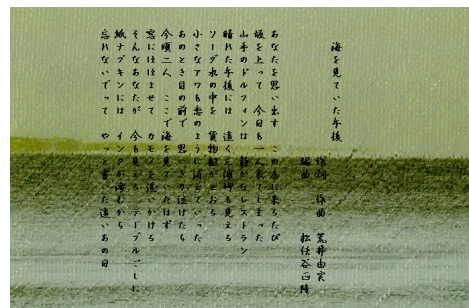
§ 24 橋脚演歌



（ の写真の一部を拡大してものが の写真）



§ 25 海を見ていた午後



（海を見ていた午後の詩が書かれている）

以上で終わり